

第 11 回 日本生殖医療心理カウンセリング学会

2014.02.22-23、東京

「生殖統合医療」は近未来のイニシアチブ

五寶秀美、神徳美奈江、北川尚子、橋本知子、榮村京子、田村有希、

伊藤啓二郎、中岡義晴、森本義晴

IVF なんばクリニック

【発表要旨】

当院では現代社会の様々なストレスで弱まっている心と体を整えることが、患者が持つ本来の力を引出し、妊娠力を高めると考え、2011年2月から統合医療プログラムを開始した。

プログラムの対象は IVF 不成功例（胚質不良、排卵誘発低反応、着床障害）、体質改善目的などである。プログラムを受けられた方の中には、最後の治療と考えている方、今の自分にできることをしたいと考える方が多い。プログラムは、胚質改善、アンチエイジングなど9種類あり、患者の症状に合わせ医師が決定し、担当者が面談をして患者の希望や好み、都合に合わせて無理なく継続可能なプログラムにしている。

2011年2月から2013年12月までにプログラムを受けられた方は425名で、平均年齢は39.0歳だった。2013年は、月に平均20名が面談に訪れた。

統合医療では、医師、看護師、カウンセラーが中心となり、各補助治療の先生と連携し患者の治療向上と自立に繋げていきたいと考える。

今回、当院での統合医療プログラムのシステムと実施状況について紹介し今後の課題について述べたい。